

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2853 号	氏 名	山 口 隆 介
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀 岡 信 悟	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>論文のタイトルは“Changes in body composition after gastrectomy - comparison between distal gastrectomy and total gastrectomy (胃切除後の体成分の変化 - 幽門側胃切除と胃全摘を比較して-)“ である。</p> <p>【目的】当科で胃切除を行った患者に対して生体電気インピーダンス法を用いた体成分測定を行い、胃切除後患者の体成分の特徴を検討した。</p> <p>【対象および方法】胃癌に対して当科で幽門側胃切除(DGR 群 108 人)、胃全摘(TGR 群 37 人)を施行した患者計 145 人を対象とした。両術式別に術前後の体重、脂肪量、体細胞量(BCM)の比較を行った。更に対象患者を術後経過期間が 24 カ月未満の早期群と、24 カ月以降の後期群に分け、両者の比較を行い長期的な変化も検討した。</p> <p>【結果】脂肪量は DGR 群より TGR 群の方が有意に低かった。BCM は DGR 群より TGR 群の方が低い傾向にあった。早期群と後期群を比較した結果では、DGR 群においては、早期群と後期群の間に各項目で有意な違いを認めなかった。しかし、TGR 群では、早期群に比較し後期群では脂肪量が有意に高値であった。また、BCM は後期群の方が低い傾向にあり、BCM が低下している症例の割合は、後期群の方が有意に高かった。【考察と結語】幽門側胃切除では、長期的な変化は起こりにくい一方で、胃全摘では、長期的に脂肪量が上昇し、BCM は低下する傾向がわかった。胃全摘後では長期的に低栄養状態になりやすいことが示唆された。</p> <p>以上、臨床的に価値ある論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			